

# 都城志布志道路建設に伴う調査成果（1）

平井 祥蔵・今塩屋 肇行・宇和田 幹彦  
(宮崎県埋蔵文化財センター)

## 1 はじめに

地域高規格道路「都城志布志道路」は、宮崎県都城市を起点に鹿児島県曾於市を経由して志布志市に至る、総延長約44kmの自動車専用道路である。この道路は、都城・大隅定住自立圏の地域振興や防災・経済・医療対策の機能強化を図るため、九州縦貫自動車道宮崎線（都城I.C）と東九州自動車道（志布志I.C）および物流拠点である中核国際港湾の志布志港を結ぶ路線であり、平成6年12月に計画路線に指定された。

都城志布志道路のうち、宮崎県側では約22kmが工事施工区間であり、その路線構成は都城I.C～五十町I.C間（約13.4km）が一般国道10号都城道路（国土交通省事業）、五十町I.C～県境（約8.5km）が県道12号都城東環状線および県道109号飯野松山都城線のバイパス（県事業）である。

当該路線内の埋蔵文化財については、25遺跡393,700m<sup>2</sup>の存在が把握されており、平成9年度以降、宮崎県教育文化財課による試掘・確認調査の結果をもとに、工事計画と遺跡の保護に関する協議調整が重ねられてきた。

令和3年3月段階で記録保存措置を受けた遺跡は、17遺跡であり、その調査成果は、すべて報告書として刊行されている。発掘調査事業そのものは、継続中であるが、金御岳I.C～県境区間が開通することになったことを踏まえて、現時点での調査成果の概要を簡単に記し、一覧表を添付する。

## 2 各時代毎の調査の成果

### 旧石器時代

都城盆地一帯では、シラスをはじめとする厚い火山灰に覆われているため、当該期の発掘調査事例は数少なく3遺跡（大年遺跡、中床丸遺跡、小迫遺跡）にて確認されている。いずれも桜島薩摩テフラ(Sz-S)よりも下位層からの検出であり、大年遺跡、中床丸遺跡においては、流紋岩の剥片が出土している。とりわけ、小迫遺跡では、後期旧石器時代の最終末にあたる細石刃が29点、細石刃核が24点出土し、そのほとんどが桑木津留産黒曜石である。

### 縄文時代草創期

平峰遺跡（3次）では、縄文時代草創期から早期頃と考えられる層において、土坑2基と集石遺構1基を検出している。また、笹ヶ崎遺跡では桜島薩摩テフラを含む層の下部より集石遺構を1基検出している。特に小迫遺跡では、遺構は検出されなかったが、隆帶文土器や尖頭器などが出土した。

### 縄文時代早期

早期の遺構としては、働く木遺跡、中床丸遺跡、笹ヶ崎遺跡、高樋遺跡、嫁坂遺跡、上高遺跡、小迫遺跡、保木島遺跡などにおいて集石遺構を検出している。なかでも、鰐塚山系南端部の金御岳工区間（嫁坂遺跡、上高遺跡、小迫遺跡、保木島遺跡）においては、比較的まとまった数の集石遺構を検出し、小迫遺跡では、平地式建物跡や堅穴建物跡が合わせて10軒検出されている。

遺物については、働く木遺跡、大年遺跡、中床丸遺跡、笹ヶ崎遺跡、高樋遺跡から前平式土器、加栗山式土器、石坂式土器、下剥峯式土器、手向山式土器、塞ノ神式土器などが出土しているが、いずれも数は少ない。小迫遺跡では、早期前半代を中心とする各土器型式が認められるが、後半段階のものはなくなる。一方、保木島遺跡では、妙見式土器を中心に中頃の縄文土器が豊富に出土したことが特筆される。

#### 縄文時代前期～中期

縄文時代前期～中期は、鬼界アカホヤ火山灰による影響のためか、遺跡数は少ないが、笹ヶ崎遺跡と隣接する高樋遺跡からは縄文時代前半末から中期前葉に位置づけされる深浦式土器がまとまって出土している。また、上高遺跡では中期ごろの竪穴住居跡2軒と陥し穴状遺構5基、小迫遺跡では中期後半から後期前半の集落跡が調査されており、竪穴建物跡や土坑などから春日式土器や大平式土器などがまとまって出土した。

#### 縄文時代後期

後期に属する遺物や遺構の調査事例は各遺跡で認められている。中床丸遺跡では、市来式土器や草野式土器が多量に出土している。その他、磨消縄文系土器や黒色磨研系土器の出土や遺構の調査例も少なくない。一方、鰐塚山系南端部の丘陵上の遺跡では嫁坂遺跡や小迫遺跡をはじめとして竪穴建物跡や土坑などで構成される集落跡が認められ、宮之迫式や中岳Ⅱ式などが出土した。

#### 縄文時代晩期

晩期になるとほとんどの遺跡で遺構や遺物の存在が確認されており、路線部分周辺にも遺跡の広範囲な展開が読み取れる。晩期の土器型式のひとつである黒川式土器やその当該期の遺構については、高樋遺跡、笹ヶ崎遺跡、大年遺跡、嫁坂遺跡、上高遺跡などで調査例があり、特筆されるものとして嫁坂遺跡の竪穴建物跡群、上高遺跡の土坑群がある。

#### 弥生時代

縄文時代晩期段階では路線上のほとんどの遺跡にて遺構や遺物が検出されていたが、弥生時代早～前期段階になるとその存在は確認できていない。路線上の遺跡で遺構や遺物の存在が新たに確認できるのは、中期でも後半段階からである。中期後半から後・終末期段階の集落遺跡としては、平田遺跡、筆無遺跡、諸麦遺跡、働く木遺跡、大年遺跡、松下遺跡などがあるが、大年遺跡、松下遺跡について弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけて営まれていた。

竪穴建物跡に着目すると、その平面形は円形や方形の他、間仕切りをもつ花弁形などがある。その他にも、掘立柱建物跡（平田遺跡、諸麦遺跡、働く木遺跡）や周溝状遺構（平田遺跡、諸麦遺跡、松下遺跡）などが検出されている。

#### 古墳時代

平峰遺跡1～3次（中～後期）、笹ヶ崎遺跡（前～中期）、高樋遺跡（中～後期）、小松尾遺跡（前期）では集落の存在が確認されている。中でも平峰遺跡1～3次では、49軒の竪穴建物跡が検出されており、そのほとんどは方形プランであるが、五角形（3軒）、六角形（2軒）のものもある。

### 古代（奈良・平安）

古代になると、路線上のほとんどの遺跡にて遺構・遺物が検出されている。特筆されるものとして梅北針谷遺跡や筆無遺跡などの調査事例がある。梅北針谷遺跡では、8世紀から9世紀代の掘立柱建物跡に伴う焼土坑が11基検出されており、屋内操業の鍛冶炉としての機能が考えられている。また、筆無遺跡では、埠もしくは柵を伴う掘立柱建物跡を略方形に取り囲む溝状遺構の他、完形の土師器塊2個が出土した土壙墓（9世紀後半～10世紀前半）や、周溝墓（9世紀末～11世紀）3基などが確認されている。その他にも各遺跡では、道路状遺構や溝状遺構も検出されており、概ね古代から中世にかけて機能したものとされている。

### 中世

中世では、平峰遺跡、大年遺跡、筆無遺跡で桜島文明軽石が降下した15世紀後半以前の畠跡（畦・畝状遺構）が検出されている。また、平田遺跡でも桜島文明軽石の降下以前の水田跡10区画分が確認されており、降灰後の復旧痕跡（天地返し）も認められた。

筆無遺跡では、大型の掘立柱建物跡数棟に伴う門状遺構を併設する溝状遺構が調査されており、これら掘立柱建物跡群は、持仏堂・庫裏・倉庫といった性格が想定されている。また、白磁碗や土師器皿、刀子が副葬された土壙墓も検出されている。

笹ヶ崎遺跡では、14世紀から15世紀前半ごろに属する掘立柱建物跡、溝状遺構、柵列、犬走状遺構、堀切、土壙墓といった施設構造物は、防御施設を備えた居館またはそれに属する施設であった可能性が指摘されている。笹ヶ崎遺跡の北側に隣接する高樋遺跡では、桜島文明軽石降下以前に形成された掘立柱建物跡群や道路状遺構などが検出されており、笹ヶ崎遺跡や梅北城跡との関連性が指摘されている。大浦遺跡では白磁碗を伴う周溝墓や掘立柱建物跡などが検出されており、12～13世紀の間に営まれたものと考えられている。

### 近世

近世の遺構と遺物が確認された遺跡は、平田遺跡、筆無遺跡、高樋遺跡、小松尾遺跡、松下遺跡などがある。このうち集落遺跡としては、平田遺跡、筆無遺跡、高樋遺跡などがあり、18世紀代を中心とする掘立柱建物跡や溝状遺構が検出されている。平田遺跡では井戸跡、筆無遺跡、高樋遺跡では埠または柵の可能性のあるピット列も確認され、筆無遺跡では土坑8基も調査されているが、その性格として貯蔵施設などが考えられている。墳墓としては、平田遺跡で寛永通宝を伴う土壙墓を含む土坑12基が検出されている。

### 3 まとめ

都城志布志道路建設に伴う発掘調査は、都城盆地の中央部から鹿児島県曾於市との県境に程近い鰐塚山系南端までの17遺跡、総調査面積148,080m<sup>2</sup>の調査であった。都城南部を縦断する各遺跡の立地は河岸段丘上や丘陵地など様々であり、今回の調査によって、立地環境や南九州の火山活動を背景とした生活の痕跡をより具体的に見いだし、都城盆地南部の歴史的な地域相の一端を捉えることができた。

NO	遺跡名	調査 年度	時代	遺構	出土遺物	
					土器・陶磁器等	石器・鉄器・その他
160	① 平田遺跡 D地点・E地点 (9,800 m <sup>2</sup> )	15 16	縄文時代 (後～晩期)	—	縄文土器（西平式・入佐式・無刻目突帯文土器）	—
			弥生時代	竪穴住居跡7 間仕切り（花弁状・円形・方形） 周溝状遺構5 掘立柱建物跡1 土坑12	弥生土器 (甕・壺・鉢・高坏・ミニチュア土器)	台石・軽石製品・磨製石鏃・石斧・石包丁・磨石・鉄矛
			古代	溝状遺構4	土師器（坏・皿・甕・高台付塊・黒色土器） 布痕土器 土製品（紡錘車） 緑釉陶器	—
			中世	溝状遺構1 小溝状遺構群 土坑1・水田跡10	土師器（皿・坏） 青磁（椀・皿）・白磁（椀・皿）・陶器（捏鉢） 東播系須恵器（鉢）	滑石製品
			古代～中世	道路状遺構8	—	鉄鏃・鉄釘等
			近世	溝状遺構1 小溝状遺構群	肥前焼（擂鉢）	—
166	② 筆無遺跡 (17,280 m <sup>2</sup> )	15 16 17	縄文時代 (後～晩期)	土坑3	縄文土器（宮之迫式・指宿式・三万田式・中岳II式・入佐式・黒川式・無刻目突帯文）・円盤形土製品	石鏃・スクレーパー・剥片・石核・石斧・石錐・敲石・磨石
			弥生時代	竪穴建物跡3 土坑1	弥生土器（甕・壺）	—
			古代～中世	掘立柱建物跡5 溝状遺構6 土坑57・周溝墓3 土坑墓2 道状遺構3 畝状遺構	土師器（皿・坏・円盤状高台塊・高台付塊・黒色土器・墨書土器・鉢・甕）須恵器（坏・高台付塊・甕・壺・横瓶・東播系須恵器） 緑釉陶器・灰釉陶器・白磁・青磁・天目茶碗・白磁合子	石製品（鎬具・滑石製石鍋）・金属製品（刀子）・石鍋・砥石
			近世	掘立柱建物跡2 溝状遺構2 土坑8	陶磁器（椀・皿・甕・擂鉢・猪口・小坏）	石製品（茶臼・砥石・石盤・火打石）
168	③ 諸麦遺跡 (4,000 m <sup>2</sup> )	17	縄文時代 (晩期)	—	縄文土器	—
			弥生時代	竪穴建物跡12 (花弁状含む) 掘立柱建物5 周溝状遺構2 土坑2・小穴多数	弥生土器（甕・壺・鉢）	石包丁・打製石斧・石鏃・敲石・磨石・砥石・台石・磨製石鏃
			古墳時代以降	—	土師器（坏・皿）陶磁器（白磁・青磁・擂鉢）	石包丁・打製石鏃・磨製石鏃・磨敲石・鉄鏃
204	④ 梅北針谷遺跡 (2,400 m <sup>2</sup> )	20	縄文時代 (後～晩期)	—	縄文土器（辛川式・入佐式・黒川式）	石斧・剥片
			古代～中世	掘立柱建物跡4 焼土土坑11	土師器（坏・小皿・塊・高台付塊・壺・鍋・布痕土器・合子・竈）須恵器（坏・皿・高台付塊・壺）・白磁・青磁・土製品（紡車・土錐）	石製品（滑石製石鍋・砥石）・鍛冶関係（羽口・鉄滓・炉壁・鑄造剥片・粒状滓）・鉄製品（刀子・鎌・鉗・棒状製品）

NO	遺跡名	調査年度	時代	遺構	出土遺物	
					土器・陶磁器等	石器・鉄器・その他
205	⑤ 働女木遺跡 (16,200 m <sup>2</sup> )	20 21	縄文時代 (早期)	集石遺構 1 土坑 1・小穴 6	縄文土器（貝殻文円筒形・手向山式・塞ノ神式）	石鏸・剥片・石核・磨石
			縄文時代前期	—	縄文土器（曾畠式）	石錘・剥片・石核
		21	縄文時代 (後～晩期)	—	縄文土器（西平式・三万田式・入佐式・黒川式）・組織痕土器	石鏸・剥片・石斧・敲石・磨石
		弥生時代	堅穴建物跡 12 間仕切（花弁状・方形） 堅穴状遺構 1 掘立柱建物跡 2 土壙墓 2・土坑 6 小穴多数	弥生土器（甕・壺・高坏・鉢）・焼成粘土塊	打製石鏸・剥片・石核・打製石斧・砥石・敲石・磨石・スクレイパー・石皿・台石・鉄器・軽石加工品	
211	⑥ 平峰遺跡 1・2次 (15,650 m <sup>2</sup> )	19 20	縄文時代 (後～晩期)	土坑 2	縄文土器（黒川式他）	石鏸・石斧・磨石・玉・剥片
			弥生時代	土坑 1	弥生土器（甕・壺）	—
		古墳時代	堅穴建物跡 31 (多角形含む) 土坑 2	土師器（甕・鉢・高坏・坏・ミニチュア）須恵器（甕・坏蓋・瓦泉）転用羽口	軽石製品・砥石・磨石・剥片・敲石・台石（金床石）・鉄滓	
		古代	堅穴状遺構 1 土坑 1	土師器（甕・皿・小型甕・高台付境・坏・境・甑）須恵器（小型壺）	—	
		中世	溝状遺構 2 道路状遺構 1	—	—	
219	⑦ 平峰遺跡 3次 (2,750 m <sup>2</sup> )	21	縄文時代 (草創期～早期)	集石遺構 1 土坑 2	—	剥片・石核・石鏸・磨石・敲石・台石・スクレイパー（縄文時代～弥生時代）
			縄文時代 (晩期)	土坑 1	縄文土器（黒川式・黒色磨研土器）	—
		弥生時代	—	弥生土器（甕・壺）	鉄鏸	
		古墳時代	堅穴建物跡 18 (五角形含む)	土師器（壺・甕・鉢・高坏・坏・ミニチュア）・須恵器（甕・管玉）・ガラス製品・鉄器・壺・平底瓶）・土製品	石器・石製品（有孔円盤・管玉）・ガラス製品・鉄器・鉄滓・鉄艇	
		古代～中世	土坑 3 道路状遺構 1 溝状遺構 1 畦状遺構 1	土師質土器	—	
237	⑧ 大年遺跡 (7,400 m <sup>2</sup> )	24 25	旧石器時代	—	—	剥片
			縄文時代 (早期)	—	縄文土器（山形押型文・無文土器）	石鏸
		縄文時代 (前～中期)	—	—	—	石鏸
		縄文時代 (後～晩期)	—	縄文土器（市来式・西平式・黒川式・刻目突縄文土器）	石鏸・楔形石器・石錘・磨製石斧・磨製石鏸・磨石・敲石・台石・異形石器 ※縄文時代後期～中世の石器で縄文時代後期のものが中心	
		弥生時代～古墳時代	堅穴建物跡 10 間仕切（花弁状・方形） 堅穴状遺構 2 土坑 2	弥生土器（壺・甕）・土師器（鉢・高坏・ミニチュア）・土製勾玉	石器（磨製石鏸・石製品・鉄器（鉄鏸）	
		古代～中世	掘立柱建物跡 1 道路状遺構 1 畦状遺構 3 溝状遺構 7	土師器質土器 陶磁器（白磁・青磁）	鉄器・石製品	

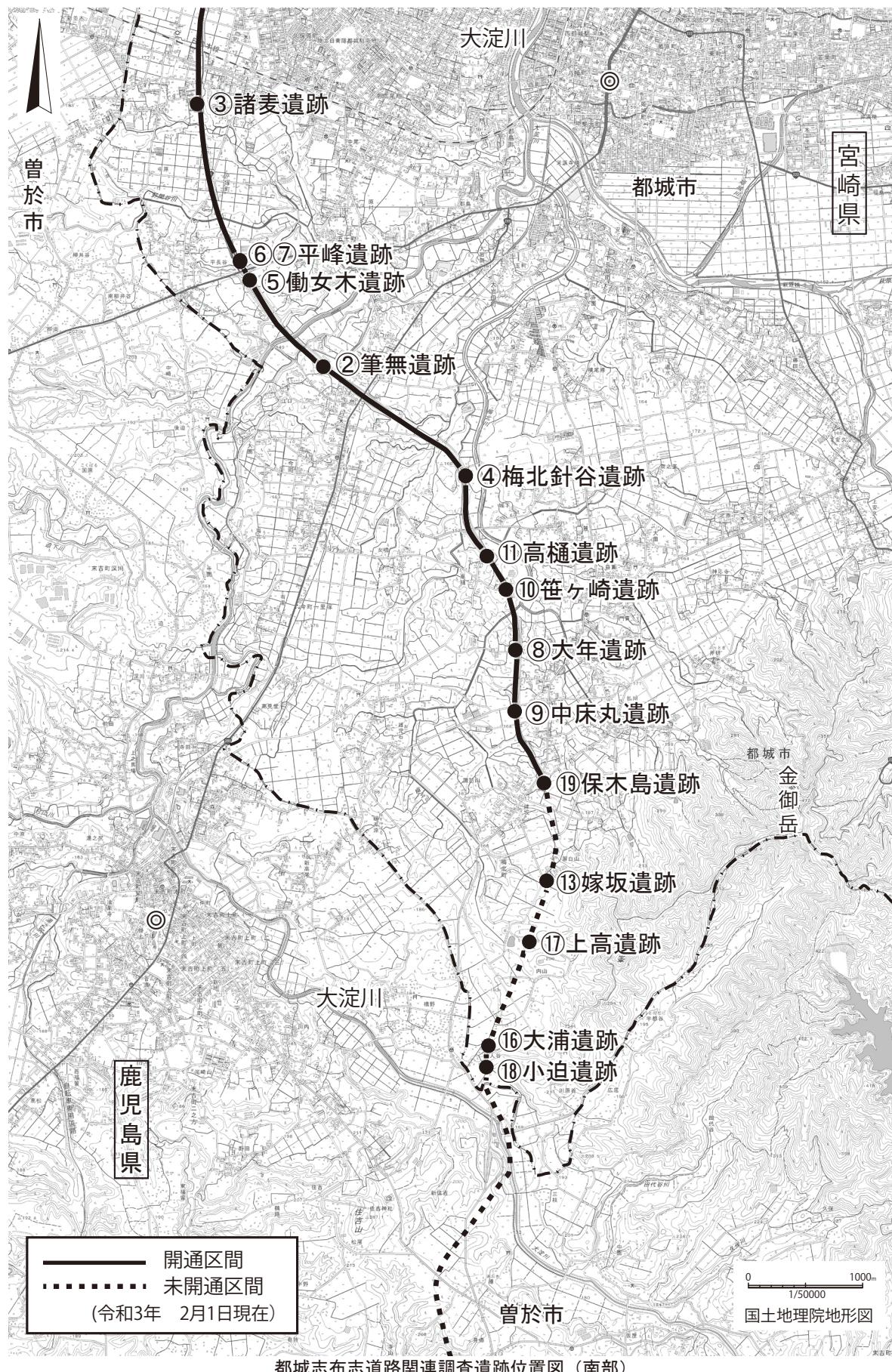
NO	遺跡名	調査 年度	時代	遺構	出土遺物	
					土器・陶磁器等	石器・鉄器・その他
239	⑨ 中床丸遺跡 1・2次 (6,100 m <sup>2</sup> )	25 26	旧石器時代	—	—	剥片（流紋岩製）
			縄文時代 (早期)	集石遺構 11	縄文土器（前平式・下剥峯式・ 桑ノ丸式）	打製石鏃・異形石器・二次 加工剥片
			縄文時代 (後～晚期)	土坑 1	縄文土器（市来式・丸尾式・ 草野式・鐘崎式・北久根式・ 指宿式・三万田式）	打製石鏃・石錐・二次加工 剥片・礫器・磨石・打製石 斧・敲石・磨製石斧・石皿・ 石錐・輕石製品
			古代～中世	掘立柱建物跡 1 溝状遺構 9 土坑 1	土師器（壺・皿・塊・甕・鍋・ 鞴の羽口）・須恵器（壺・捏鉢・ 提瓶）・白磁・青磁・陶器	染付・宋錢
			時期不明	竪穴状遺構 1 土坑 4 環状ピット列 4 陥し穴状遺構 1	—	—
240	⑩ 笹ヶ崎遺跡 (8,300 m <sup>2</sup> )	26 27 27	縄文時代 (草創期)	集石遺構 1	—	—
			縄文時代 (早期)	集石遺構 1	縄文土器（知覧式・塞ノ神式）	—
			縄文時代 (前～中期)	—	縄文土器（曾畠式・尾田式・ 深浦式・野久尾タイプ・船 元式系統）	石鏃・石匙・磨製石斧・剥 片石器・敲石・砥石・異形 石器
			縄文時代 (後～晚期)	土坑 4	縄文土器（太郎迫式・御領 式）・組織痕土器・黒色磨研 土器	石鏃・石匙・打製石斧・剥 片石器・磨製石斧・敲石
			古墳時代	竪穴建物跡 2 土坑 1	土師器（甕・壺・高壺・ミ ニチュア・器台）	—
			古代	—	土師器（高台付塊） 布痕土器	石帶
			中世	掘立柱建物跡 8 溝状遺構 13 土坑墓 堀切・土塁 犬走状遺構 畦状遺構 1 土坑柵列 2	土師器（壺・甕）青磁・白磁・ 青花・陶器	石製品・銅製品・錢貨
243	⑪ 高樋遺跡 (4,400 m <sup>2</sup> )	27	縄文時代 (早期)	集石遺構 2	縄文土器（知覧式・下剥峯式・ 塞ノ神式・押型文系土器）	石鏃
			縄文時代 (前～中期)	土坑 3 集石遺構 4	縄文土器（深浦式土器）	石鏃・石匙・スクレーパー・ 磨石
			縄文時代 (晚期)	土坑 1	縄文土器（黒川式・組織痕 土器・孔列文土器）	
			古墳時代	竪穴建物跡 8	土師器（甕・壺・高壺・鉢・ 小型丸底壺・小型土器・二 重口縁壺）・土製品（鞴の羽 口）・成川式土器（甕）	敲石・刀子・砥石
			古代～中世	掘立柱建物跡 14 竪穴状遺構 1 溝状遺構 8 道路状遺構 5 小穴多数	陶磁器（白磁・青磁）・國產 陶器・土師器（壺・皿）	貨錢
			近世	掘立柱建物跡 5 柵列 1 溝状遺構 3 小穴多数	陶磁器（青花皿・白磁・擂 鉢等）	—
			時期不明	掘立柱建物跡 13 柵列 11・土坑 6 溝状遺構 3	土製品	石器・石臼・鐵製品

NO	遺跡名	調査年度	時代	遺構	出土遺物	
					土器・陶磁器等	石器・鉄器・その他
247	⑫ 平田遺跡 F 地点・G 地点 (9,600 m <sup>2</sup> )	27 28	縄文時代 (後～晩期)	—	縄文土器 2 片	—
			弥生時代	竪穴建物跡 3 周溝状遺構 3 土坑 1 土器溜り 4	弥生土器 (甕・壺・高坏・器台・ミニチュア土器等)	打製石鎌・磨製石鎌・打製石斧・敲石・石包丁
			中世～近世	小溝状遺構群 道路状遺構 2	土師器 (皿・坏)・青磁・白磁・陶磁器	砥石・軽石製品
			近世以降	掘立柱建物跡 3 井戸跡 4 溝状遺構 7 土坑 12 (土坑墓含む)	陶磁器	石製品・軽石製品・錢貨
249	⑬ 嫁坂遺跡 II (9,800 m <sup>2</sup> )	28	縄文時代 (早期)	集石遺構 13	縄文土器 (貝殻文円筒形土器)	凹石・砥石
			縄文時代 (前～中期)	集石遺構 1 土坑 1	—	—
		29	縄文時代 (後～晩期)	竪穴建物跡 7 土坑 17 溝状遺構 1	縄文土器 (中岳 II 式・市来式・指宿式・宮之迫式・入佐式・御領式・三万田式・鳥居式・黒川式)・組織痕土器	石鎌・楔形石器・砥石・スクレイパー・打製石斧・磨製石斧・礫器・異形石器・石匙・管玉・敲石
			弥生時代	—	弥生土器 (鉢・壺)	石鎌
		29	古代～中世	土坑 1 溝状遺構 2 道路状遺構 3	青磁・黒色土器・土師器 (坏)・擂鉢	剥片・砥石
			近世	—	陶器・磁器	—
250	⑭ 小松尾遺跡 (7,100 m <sup>2</sup> )	29	古墳時代	竪穴建物跡 1	土師器 (小型丸底壺等)	—
		30	中世～近世	溝状遺構 6 土坑 2	陶磁器 (青磁等)	砥石等・鉄滓
252	⑮ 松下遺跡 (5,100 m <sup>2</sup> )	29	縄文時代 (晩期)	—	縄文土器 (組織痕土器等)	打製石鎌
			弥生時代 ～古墳時代	竪穴建物跡 4 周溝状遺構 1 土坑 3	弥生土器 (甕・壺・高坏・鉢・器台・ミニチュア土器)	—
		30	古代	溝状遺構 1 (大溝)	墨書き土器	石包丁
			中世～近世	小溝状遺構群 溝状遺構 1	陶磁器	—
253	⑯ 大浦遺跡 (1,600 m <sup>2</sup> )	30	縄文時代 (早期)	—	縄文土器 (円筒形土器)	—
			縄文時代 (後～晩期)	竪穴住居跡 1 (縄文時代後期)	縄文土器 (中岳 II 式・宮之迫式・黒川式)	打製石鎌・剥片・打製石斧・スクレーパー・敲石・砥石・台石・礫石器・石錐
		30	弥生時代	—	弥生土器 (甕・大甕・壺・鉢)	石錐・砥石
			古代～中世	掘立柱建物跡 7 周溝墓 1 土坑 7 小穴群	土師器 (坏・小皿・塊・皿・鉢・高台付塊)・黒色土器・製塙土器・須恵質貯藏具・白磁・青磁・土製品 (紡錘車) ※周溝墓より白磁塊・土師器杯が出土	滑石製石鍋・刀子または包丁・鉄滓
		30	時期不明	溝状遺構 1	—	—

NO	遺跡名	調査 年度	時代	遺構	出土遺物	
					土器・陶磁器等	石器・鉄器・その他
254	⑯ 上高遺跡 (5,400 m <sup>2</sup> )	29 30	縄文時代 (早期)	集石遺構 24 土坑 2	縄文土器 (塞ノ神式・加栗山式・石坂式・下剥峯式)	楔形石器・磨敲石
			縄文時代 (前～中期)	竪穴建物跡 2 土坑 8 陥し穴状遺構 5	—	石匙
			縄文時代 (後～晩期)	土坑 31	縄文土器 (岩崎式・指宿式・松山式・丸尾式・中武Ⅱ式・入佐式・黒川式)	石鏃・打製石斧・磨製石斧・敲石・磨石・磨敲石・スクレイパー・砥石・石皿
			古代～中世	道路状遺構 10	土師器 (甕)・須恵器 (甕)・製塩土器	—
257	⑰ 小迫遺跡 (2,600 m <sup>2</sup> )	30	後期旧石器時代	—	—	細石刃・細石刃核
			縄文時代 (草創期)	—	縄文土器 (無文・隆帶文土器)	プランク・尖頭器・石鏃・楔形石器・両面加工石器・スクレイパー・二次加工剥片・使用痕剥片・石核・剥片・チップ
			縄文時代 (早期)	竪穴建物跡 6 平地式建物跡 土坑 15 陥し穴状遺構 7 集石遺構 8 小穴 (柱穴)	縄文土器 (前平式・加栗山式・吉田式・下剥峯式・中原式・手向山式・天道ヶ尾式・妙見式・平桟式・押型文土器)	石鏃・楔形石器・スクレイパー・使用痕剥片・二次加工剥片・石核・剥片・チップ・磨石・敲石・石皿・台石
			縄文時代 (中～後期)	竪穴建物跡 40 土坑 34 集石遺構 2 陥し穴状遺構 4 小穴 (柱穴)	縄文土器 (春日式・大平式・中尾田Ⅲ類・阿高式・宮之迫式・南福寺式・本野原 (指宿)式・成川K式・市来式・納曾式・黒川式・無文土器等)	石鏃・石匙・石錐・楔形石器・スクレイパー・石斧・礫器・使用痕剥片・二次加工剥片・石核・剥片・チップ・磨石・敲石・磨敲石・石皿・台石・石錘
			古墳時代～ 中世	土坑 5 竪穴状遺構 1 道路状遺構 2 小穴群	土師器 (壺・坏) 須恵器 (壺・高台付塊)・綠釉陶器・瓦器	—
			縄文時代早期	集石遺構 12 土坑 5 陥し穴状遺構 1	縄文土器 (岩本式・前平式・平桟式・塞ノ神式・妙見式・押型文)・土製品 (耳栓)	石鏃・石鏃未成品・尖頭状石器・石匙・石錐・スクレイパー・楔形石器・二次加工剥片・使用痕剥片・石核・剥片・異形石器
258	⑲ 保木島遺跡 (12,600 m <sup>2</sup> )	27 29 30	縄文時代 (中～後期)	陥し穴状遺構	—	—
			縄文時代 (後～晩期)	土坑 1	縄文土器 (指宿式・中武Ⅱ式・黒色磨研土器・入佐式・黒川式)・円盤状土製品	石鏃・石錐・剥片・碎片・スクレイパー・石核・石斧・磨石・磨敲石・台石
			古代～中世	掘立柱建物跡 4 土坑 8 溝状遺構 2 道路状遺構 2	土師器 (高台付塊・坏・皿)・黑色土器・白磁	—

NOは報告書番号

調査年度は平成





都城志布志道路関連調査位置図（北部）

都城志布志道路建設関連 発掘調査報告書一覧（令和3年3月末現在）

- 宮崎県埋蔵文化財センター 2007 「平田遺跡D地点・E地点」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』160
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2008 「筆無遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』166
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2008 「諸麦遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』168
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2011 「梅北針谷遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』204
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2011 「働く木遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』205
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2012 「平峰遺跡1・2次」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』211
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2012 「平峰遺跡3次」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』219
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2016 「大年遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』237
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2016 「中床丸遺跡1・2次」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』239
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2016 「笛ヶ崎遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』240
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2018 「高樋遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』243
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2019 「平田遺跡F地点・G地点」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』247
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2019 「嫁坂遺跡II」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』249
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2019 「小松尾遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』250
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2020 「松下遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』252
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2020 「大浦遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』253
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2020 「上高遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』254
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2021 「小迫遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』257
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2021 「保木島遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』258